

# 第 49 回「山形県内企業の景気動向調査」 確報

(平成 28 年 11 月調査)

## ～業況は足踏み状態～

### 【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」が▲6.0 (前回調査比 0.3 ポイント上昇) と ほぼ横ばい となった。「各種 D I 値 (前年同期比)」をみると、「人員・人手」「資金繰り」が改善したものの、「売上高」「営業利益」が横ばい圏内の動きとなった。「人員・人手」はプラス幅が拡大し、人手不足感が増している。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」をみると、建設業が▲3.2 (前回調査比 6.0 ポイント上昇)、製造業が▲2.9 (前回調査比 4.4 ポイント下落)、卸・小売業が▲20.2 (前回調査比 3.2 ポイント上昇)、サービス業が 1.9 (前回調査比 2.7 ポイント下落) と、建設業と卸・小売業で改善した一方、製造業とサービス業で悪化となっている。製造業では前回調査でプラスに転じた D I 値が再びマイナスとなった。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」をみると、村山南部が▲4.7 (前回調査比 2.9 ポイント下落)、村山北部が 3.4 (前回調査比 6.9 ポイント下落)、最上が▲13.9 (前回調査比 7.1 ポイント上昇)、置賜が▲20.7 (前回調査比 8.1 ポイント上昇)、庄内田川が 3.8 (前回調査比 5.0 ポイント上昇)、庄内飽海が▲9.0 (前回調査比 2.6 ポイント下落) となっている。村山南部、村山北部、庄内飽海で悪化した一方で、最上、置賜、庄内田川で改善となった。庄内田川では D I 値が 6 期ぶりにプラスに転じた。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値」が▲10.1 (今回調査比 4.1 ポイント下落) と悪化の見込みとなっている。

### 【特別調査】

- **冬季ボーナス**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 57.2% (前年度比 1.5 ポイント上昇) と、前年に比べて若干上昇し、平成 24 年 11 月調査以降 5 年連続の上昇となった。

平成 28 年 12 月

株式会社 フィデア総合研究所

# 目次

I. 県内企業の業況	1
1. 概況	1
2. 業種別の動向	2
(1) 業種別の概況	2
(2) 業種別 D I 値の動向	3
① 建設業	3
② 製造業	5
③ 卸・小売業	7
④ サービス業	9
3. 地域別の動向	11
(1) 地域別の概況	11
(2) 地域別 D I 値の動向	12
① 村山南部	12
② 村山北部	13
③ 最上	14
④ 置賜	15
⑤ 庄内田川	16
⑥ 庄内飽海	17
II. 景気の天気予報図	18
III. 特別調査	19
1. 冬季ボーナスについて	19
(1) 支給予定動向	19
(2) 支給予定額	21
<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>	23
<参考資料 II : 調査の概要>	23

## I. 県内企業の業況

### 1. 概況

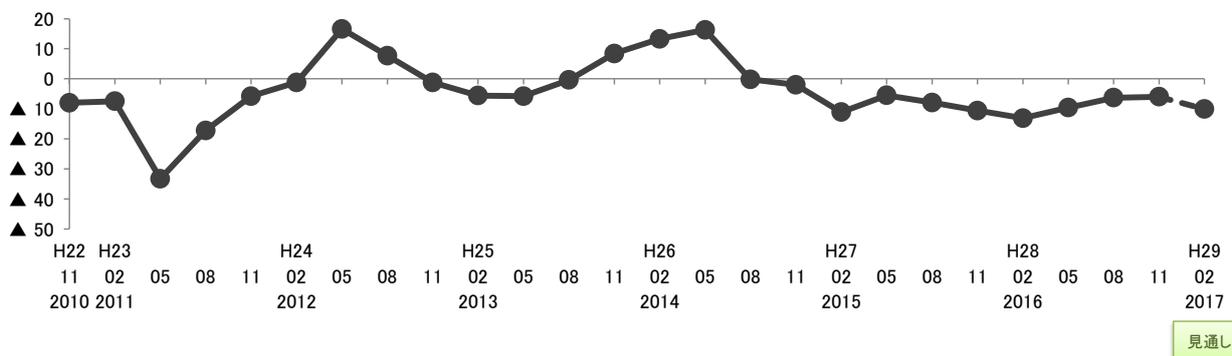
#### 現状判断：業況は足踏み状態

県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲6.0（前回調査比0.3ポイント上昇）とほぼ横ばいとなった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「人員・人手」「資金繰り」が改善したものの、「売上高」「営業利益」が横ばい圏内の動きとなった。「人員・人手」はプラス幅が拡大し、人手不足感が増している。

#### 来期の見通し：悪化が見込まれる

先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲10.1（今回調査比4.1ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 1 全業種「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
H 27. 11 (n=440)	▲ 10.6	(▲ 2.7)	▲ 7.3	▲ 15.2	▲ 11.8	16.8	▲ 8.8
H 28. 02 (n=428)	▲ 13.1	(▲ 2.5)	▲ 12.1	▲ 13.6	▲ 6.3	14.0	▲ 9.4
H 28. 05 (n=451)	▲ 9.6	(3.5)	▲ 19.9	▲ 10.4	▲ 9.1	15.8	▲ 7.1
H 28. 08 (n=457)	▲ 6.3	(3.3)	▲ 14.0	▲ 7.2	▲ 6.6	19.1	▲ 8.5
<b>H 28. 11 (n=435)</b>	<b>▲ 6.0</b>	<b>(0.3)</b>	<b>▲ 11.9</b>	<b>▲ 6.5</b>	<b>▲ 5.2</b>	<b>24.8</b>	<b>▲ 5.0</b>
前回調査比	-	-	-	(0.7)	(1.4)	(5.7)	(3.5)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 10.1</b>	-	-	<b>▲ 10.8</b>	<b>▲ 12.6</b>	<b>26.7</b>	<b>▲ 15.0</b>
今回調査比	(▲ 4.1)	-	-	(▲ 4.3)	(▲ 7.4)	(1.9)	(▲ 10.0)

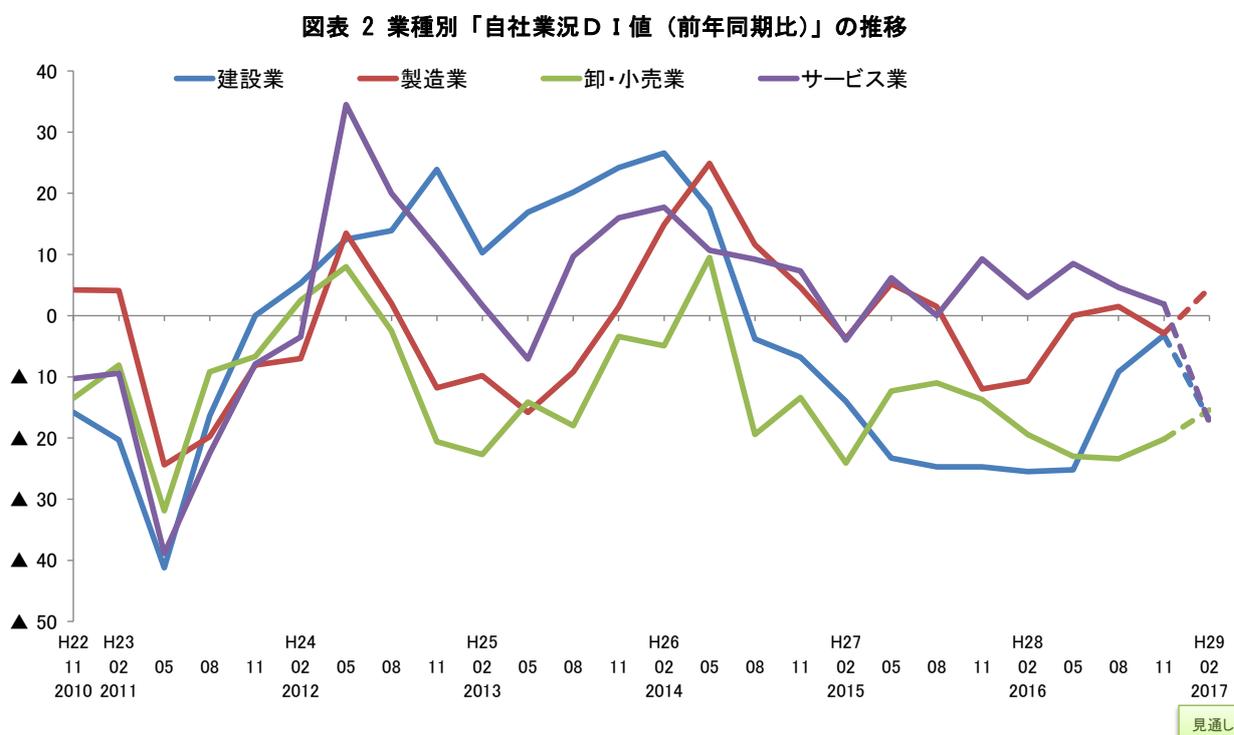
※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

## 2. 業種別の動向

### (1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲3.2（前回調査比 6.0 ポイント上昇）、製造業が▲2.9（前回調査比 4.4 ポイント下落）、卸・小売業が▲20.2（前回調査比 3.2 ポイント上昇）、サービス業が 1.9（前回調査比 2.7 ポイント下落）と、建設業と卸・小売業で改善した一方、製造業とサービス業で悪化となっている。製造業では前回調査でプラスに転じた D I 値が再びマイナスとなった。

業況の先行き見通しは、製造業と卸・小売業で改善するものの、建設業とサービス業で大幅に悪化の見込みとなっている。



前年同期比の自社業況 D I 値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 27. 11 (n=440)	▲ 10.6	▲ 24.7	▲ 12.0	▲ 13.7	9.3
H 28. 02 (n=428)	▲ 13.1	▲ 25.5	▲ 10.7	▲ 19.4	3.0
H 28. 05 (n=451)	▲ 9.6	▲ 25.2	0.0	▲ 23.0	8.5
H 28. 08 (n=457)	▲ 6.3	▲ 9.2	1.5	▲ 23.4	4.6
<b>H 28. 11 (n=435)</b>	<b>▲ 6.0</b>	<b>▲ 3.2</b>	<b>▲ 2.9</b>	<b>▲ 20.2</b>	<b>1.9</b>
前回調査比	(0.3)	(6.0)	(▲ 4.4)	(3.2)	(▲ 2.7)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 10.1</b>	<b>▲ 17.0</b>	<b>4.5</b>	<b>▲ 15.4</b>	<b>▲ 17.5</b>
今回調査比	(▲ 4.1)	(▲ 13.8)	(7.4)	(4.8)	(▲ 19.4)

## (2) 業種別 D I 値の動向

### ① 建設業

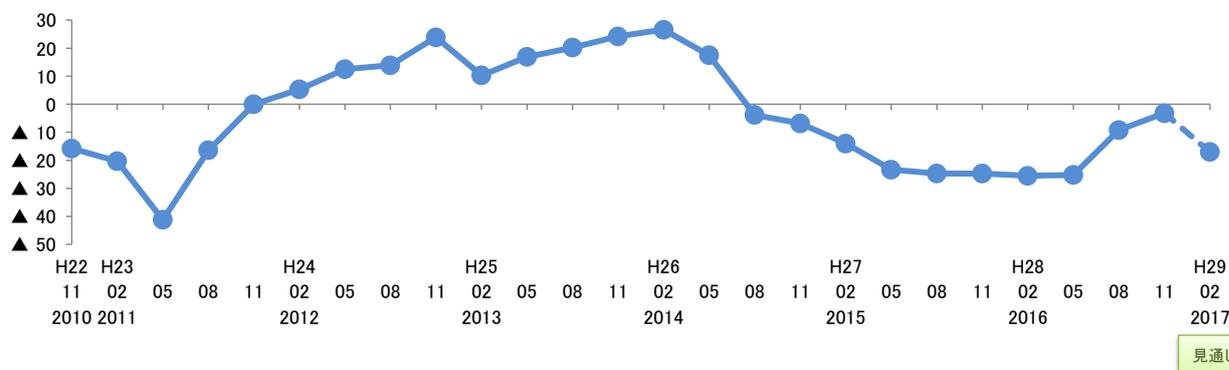
#### 現状：3期連続で改善ながら慎重姿勢

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲3.2（前回調査比 6.0 ポイント上昇）と 3 期連続で改善した。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、すべての項目で改善となっている。業況が改善した企業では公共工事等の受注が順調な状況がうかがえるが、「自社の業況 D I 値」は依然としてマイナスで推移しており、総じて慎重姿勢が続いている。また、人手不足感が深刻さを増している。

#### 来期の見通し：悪化が見込まれる

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲17.0（今回調査比 13.8 ポイント下落）と大幅に悪化の見込みとなっている。

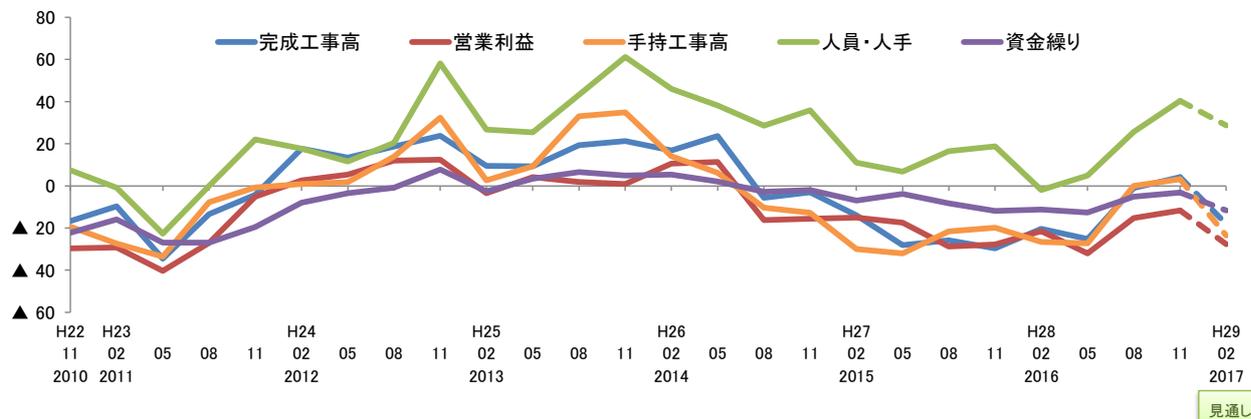
図表 3 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測	今回調査比					
H 27. 11 (n=101)	▲ 24.7	(0.0)	▲ 20.6	▲ 29.7	▲ 27.8	▲ 19.8	18.8	▲ 11.9
H 28. 02 (n=98)	▲ 25.5	(▲ 0.8)	▲ 27.7	▲ 20.4	▲ 21.5	▲ 26.6	▲ 2.0	▲ 11.2
H 28. 05 (n=103)	▲ 25.2	(0.3)	▲ 37.7	▲ 25.2	▲ 32.0	▲ 27.2	4.9	▲ 12.6
H 28. 08 (n=98)	▲ 9.2	(16.0)	▲ 30.1	▲ 1.0	▲ 15.3	0.0	25.6	▲ 5.1
<b>H 28. 11 (n=94)</b>	<b>▲ 3.2</b>	<b>(6.0)</b>	<b>▲ 20.4</b>	<b>4.2</b>	<b>▲ 11.7</b>	<b>3.2</b>	<b>40.4</b>	<b>▲ 3.2</b>
前回調査比	-	-	-	(5.2)	(3.6)	(3.2)	(14.8)	(1.9)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 17.0</b>	-	-	<b>▲ 18.1</b>	<b>▲ 27.7</b>	<b>▲ 23.5</b>	<b>28.7</b>	<b>▲ 11.7</b>
今回調査比	(▲ 13.8)	-	-	(▲ 22.3)	(▲ 16.0)	(▲ 26.7)	(▲ 11.7)	(▲ 8.5)

図表 4 建設業「各種DI値（前年同期比）」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 受注金額が小さいため、完成工事高が上がらない。(村山南)
- 公共工事は夏以降に発注が好調だったため、今期の業況は良い(最上)
- 公共事業は災害復旧等の工事は多いが、一般工事としての全体量が少ない。そのためか、低価格入札が見られ始めている。(置賜)
- 人口が減っている反面世帯数が増えて、新築物件やリフォーム件数があるように感じる。県・市の補助金制度を活用し、工事をするきっかけになっていると思う。(置賜)
- かなり厳しいと予想していたが、順調に受注に結びつき、業績も前期同様と好結果となった。(庄内田川)
- 建設業の求職者が減少しているため、人手不足で工事を受注できない。諦めざるを得ない状況が続いている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 公共工事および民間工事の大型設備投資等の先行き状況が不透明であり、来期は減収が予想される。(村山南)
- 土木工事の物件が見えてこない。(最上)
- 除雪地域は除排雪に依存しているので、予測は難しい。(置賜)
- 年度末に向けて工事が集中してきている。人員が不足する。(庄内田川)
- 住宅(リフォーム含む)の受注に力を入れている。販促計画の見直しを行う。(庄内田川)
- 公共工事はほぼ出尽くしたので、冬季の受注が厳しいと思う。(庄内飽海)

## ② 製造業

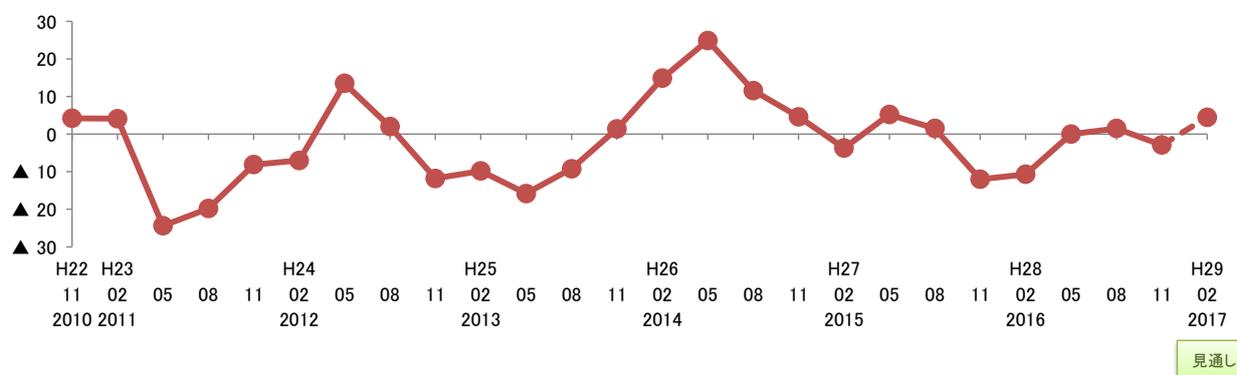
### 現状：4期ぶりに悪化

「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲2.9（前回調査比4.4ポイント下落）と4期ぶりに悪化し、前回調査でプラスに転じたDI値が再びマイナスとなった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「仕入価格」「資金繰り」で悪化となった。中でも「売上高」の悪化幅が大きく、DI値がマイナスに転じた。この背景として、前年に比べて円高となったことによる、海外向けの受注減少や市場価格の低下などが考えられ、不安定な為替相場を懸念する状況がうかがえる。

### 来期の見通し：改善が見込まれる

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が4.5（今回調査比7.4ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

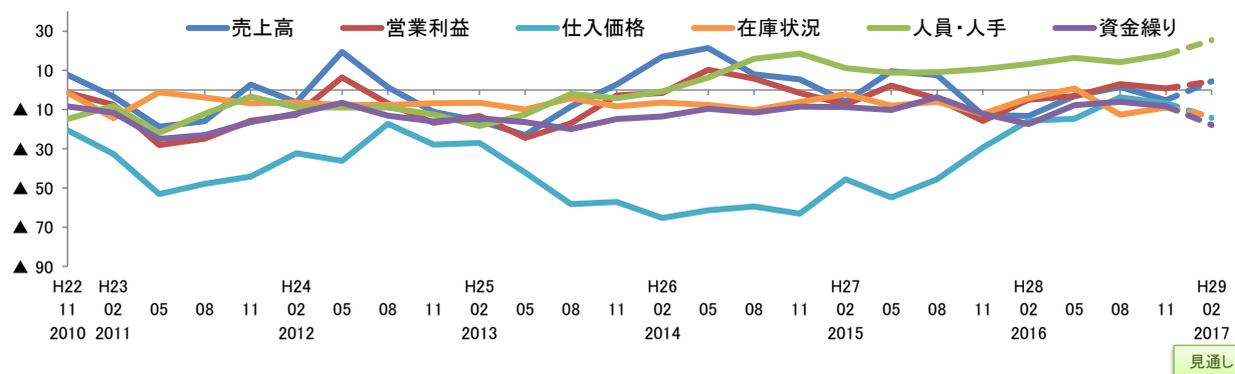
図表 5 製造業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 27. 11 (n=133)	▲ 12.0	(▲ 13.5)	1.5	▲ 12.8	▲ 15.8	▲ 29.3	▲ 12.1	10.6	▲ 12.1
H 28. 02 (n=121)	▲ 10.7	(1.3)	▲ 2.3	▲ 13.2	▲ 5.0	▲ 15.7	▲ 4.2	13.2	▲ 17.4
H 28. 05 (n=129)	0.0	(10.7)	▲ 10.7	▲ 3.1	▲ 3.1	▲ 14.7	0.8	16.3	▲ 7.8
H 28. 08 (n=134)	1.5	(1.5)	3.9	1.5	3.0	▲ 3.7	▲ 12.7	14.2	▲ 6.0
H 28. 11 (n=134)	▲ 2.9	(▲ 4.4)	▲ 7.5	▲ 5.2	0.8	▲ 6.7	▲ 9.0	18.0	▲ 8.2
前回調査比	-	-	-	(▲ 6.7)	(▲ 2.2)	(▲ 3.0)	(3.7)	(3.8)	(▲ 2.2)
先行き見通し	4.5	-	-	4.4	4.4	▲ 14.2	▲ 13.4	25.4	▲ 17.9
今回調査比	(7.4)	-	-	(9.6)	(3.6)	(▲ 7.5)	(▲ 4.4)	(7.4)	(▲ 9.7)

図表 6 製造業「各種DI値（前年同期比）」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 今期は円高傾向で推移しているため輸入原材料を安く仕入れられていることから、想定より利益を捻出できている。(村山南)
- 円高の進行によってお客様によっては欧州向けの受注急減などのマイナス面が顕著になっている。これ以上円高になるとコストカットの要求がますます厳しくなる。(村山北)
- 中国経済失速の影響で、設備関連の受注は減っている。(置賜)
- 為替の影響により原材料価格の変動があるので、利益率の変動があって厳しい。(置賜)
- 景気は回復基調にあるが、中国経済の失速の影響が残っている。(庄内田川)
- 燃料価格（ガソリン、灯油）の上昇が製造原価に影響を及ぼす。(庄内田川)
- 円高による輸出販売価格の下落等により、減収となっているが、原燃料安により増益となっている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 生産性の高い製品の構成比を上げるため、積極的に販促活動を行っていく。(村山南)
- 原料米の異常な値上がりにより、特に国産米を使用する中小業者の経営がかなり苦しくなると予想される。(村山北)
- 経費削減、人員の削減も進める。(村山北)
- コストダウン要求が多いので、自社内で努力できる原価低減を積極的に行っている。(最上)
- 為替変動に左右されない事業構造の転換を目指し、新規開拓を含め、商談中。(置賜)
- 資金調達の合理化と為替対策等を行う。(置賜)
- 労働集約型産業のため、人手不足が顕著で先行き不安。仕事はあるが人がいない。(庄内田川)

### ③ 卸・小売業

#### 現状：5期ぶりに改善

「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲20.2（前回調査比 3.2 ポイント上昇）と5期ぶりに改善となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「仕入価格」で悪化したものの、その他5項目で改善となった。しかしながら、DI値は低水準で推移しており、経費削減や新商品投入などにより業況が改善した企業もみられたが、依然として消費の低迷が続いているものと考えられる。

#### 来期の見通し：改善が見込まれる

業況の先行き見通しは、▲15.4（今回調査比 4.8 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

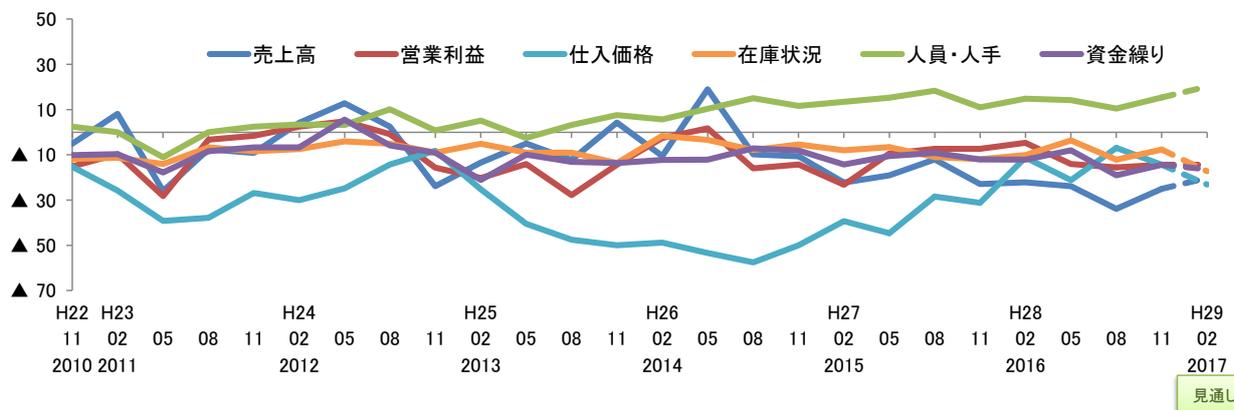
図表 7 卸・小売業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 27.11 (n=109)	▲ 13.7	(▲ 2.7)	▲ 9.2	▲ 22.9	▲ 7.3	▲ 31.2	▲ 11.9	11.0	▲ 12.0
H 28.02 (n=108)	▲ 19.4	(▲ 5.7)	▲ 16.5	▲ 22.2	▲ 4.7	▲ 11.2	▲ 10.1	14.8	▲ 12.1
H 28.05 (n=113)	▲ 23.0	(▲ 3.6)	▲ 24.1	▲ 23.9	▲ 14.1	▲ 21.2	▲ 3.6	14.2	▲ 8.0
H 28.08 (n=115)	▲ 23.4	(▲ 0.4)	▲ 14.2	▲ 33.9	▲ 15.6	▲ 6.9	▲ 12.1	10.4	▲ 19.1
H 28.11 (n=104)	▲ 20.2	(3.2)	▲ 12.2	▲ 25.0	▲ 14.4	▲ 14.4	▲ 7.7	15.4	▲ 14.4
前回調査比	-	-	-	(8.9)	(1.2)	(▲ 7.5)	(4.4)	(5.0)	(4.7)
先行き見通し	▲ 15.4	-	-	▲ 20.2	▲ 14.4	▲ 23.1	▲ 17.3	20.2	▲ 16.4
今回調査比	(4.8)	-	-	(4.8)	(0.0)	(▲ 8.7)	(▲ 9.6)	(4.8)	(▲ 2.0)

図表 8 卸・小売業「各種DI値（前年同期比）」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 消費者の購買意欲の高まりを感じた時期もあったがすぐに収まり、夏休み中も盛り上がりせずに終わってしまった。(村山南)
- 堅調に推移している感触。それが商品力と相まってまずまずの業績になっている。(村山南)
- 消費量の回復の兆しがまったく見えない。中国元安と円高で仕入価格（輸入価格）は下がったが、商品も一部値下げをしている。しかし消費量はまったく伸びない。景気はやや後退している感じがある。(最上)
- 来客数が減っているうえ、見るだけの方も多く、買い場が変化しているのをより強く肌で感じる。(庄内田川)
- 前年同期に比べれば、消費税アップも延期となり多少もち直し感はあるが、まだまだ慎重なところがみられる。(庄内飽海)
- 相変わらず消費が低迷しており米販売は苦戦している状況。特に販売価格が下げ止まりの感じで極めて厳しい状況が続くと思われる。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 来期は年末商戦ということで、多少売上は増加すると思うが、どこで買われるかによって、店舗ごと、業態ごとで大きな差が出ると予想される。(村山南)
- 加工品が順調に推移して、利益も堅調と言える。しかし、相場が昨年比、弱いので売上が減る見通し。(村山北)
- 消費者は価格志向が強く、それでいて良い物を好む。ますます競争が激化し、小さな体力のない所は淘汰される。厳しさが増す。(置賜)
- 来期は、冬物商品（暖房器具の販売、灯重油ガスの需要増）により、売上高、利益の増が見込まれる。ただ、原油高により、仕入れ価格が値上がりすると、資金繰りが苦しくなるだろう。(庄内田川)

## ④ サービス業

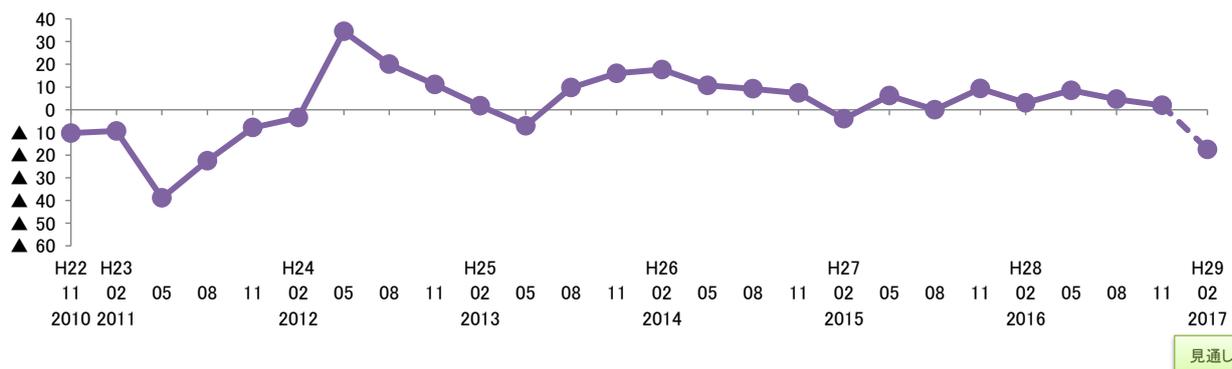
### 現状：2期連続で悪化

「自社の業況DI値（前年同期比）」は1.9（前回調査比2.7ポイント下落）と、2期連続で悪化となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」が悪化となっている。土木・建築サービスや観光関連などで業況悪化の状況がうかがえる。

### 来期の見通し：悪化が見込まれる

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲17.5（今回調査比19.4ポイント下落）と大幅に悪化し、DI値がマイナスに転じる見込みとなっている。

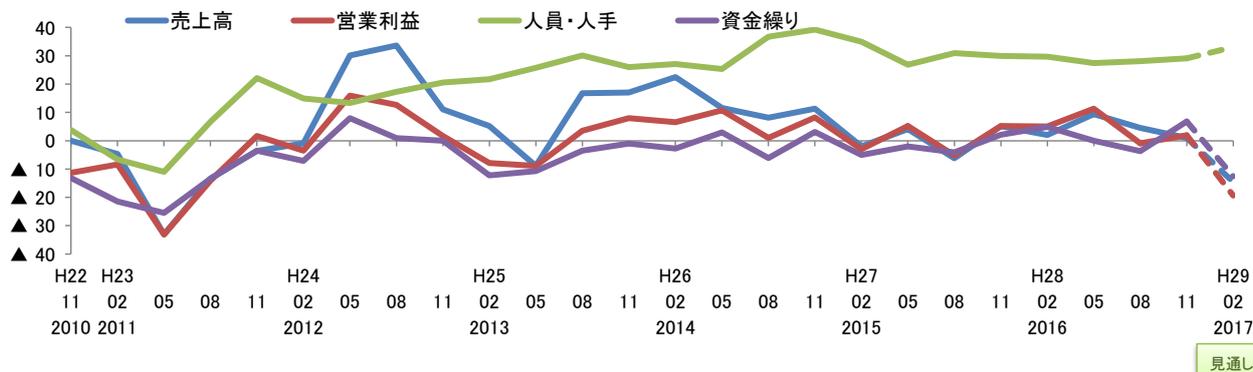
図表 9 サービス業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 27. 11 (n=97)	9.3	(9.3)	▲ 4.1	5.1	5.2	29.9	2.1
H 28. 02 (n=101)	3.0	(▲ 6.3)	▲ 4.1	2.0	5.0	29.7	4.9
H 28. 05 (n=106)	8.5	(5.5)	▲ 8.9	9.4	11.3	27.4	0.0
H 28. 08 (n=110)	4.6	(▲ 3.9)	▲ 19.8	4.5	▲ 0.9	28.1	▲ 3.7
<b>H 28. 11 (n=103)</b>	<b>1.9</b>	<b>(▲ 2.7)</b>	<b>▲ 9.1</b>	<b>1.0</b>	<b>1.9</b>	<b>29.1</b>	<b>6.8</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 3.5)	(2.8)	(1.0)	(10.5)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 17.5</b>	-	-	<b>▲ 14.6</b>	<b>▲ 19.4</b>	<b>33.0</b>	<b>▲ 12.6</b>
今回調査比	(▲ 19.4)	-	-	(▲ 15.6)	(▲ 21.3)	(3.9)	(▲ 19.4)

図表 10 サービス業「各種DI値（前年同期比）」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 売上は増加しているものの、競争が激しく利益確保が難しい状況が続いている。(村山北)
- 宿泊客及び宴会客の動きが悪い。(村山北)
- 県内の店舗における需要は減少傾向。インターネット販売及び県外（首都圏）の需要を期待する。(最上)
- 観光業だが、全般的に東北の観光が落ちている。(置賜)
- 全体では海外からのインバウンド客の増加を大きな要素として動いているが、当地では全く影響がみられない。(置賜)
- 消費がまったく伸びていない。夜間になると急激に人の動きがなくなる。(庄内飽海)
- 昨年はマイナンバー特需があり業界的にも良かったが、今年は厳しい。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 人材の育成、獲得のための福利厚生向上、既存取引先の取引シェア拡大、事務の効率化などを行う。(村山南)
- 燃料単価が上がり始めている。その動向によっては、利益ベースが大きく変動する。(村山北)
- ネット環境を今一度見直し、集客の拡大に取り組む。(庄内田川)
- 昨年度実施のふるさと割やクーポン等の施策がなく、その分の確保が課題である。(庄内田川)
- 引き続き、経費削減や効率を求める対策を打つしかないように思える。(庄内飽海)
- 地元消費者の需要は減っていると感じる。観光客や外からの需要が昨年に比べ減っているので先行きは厳しい。(庄内飽海)

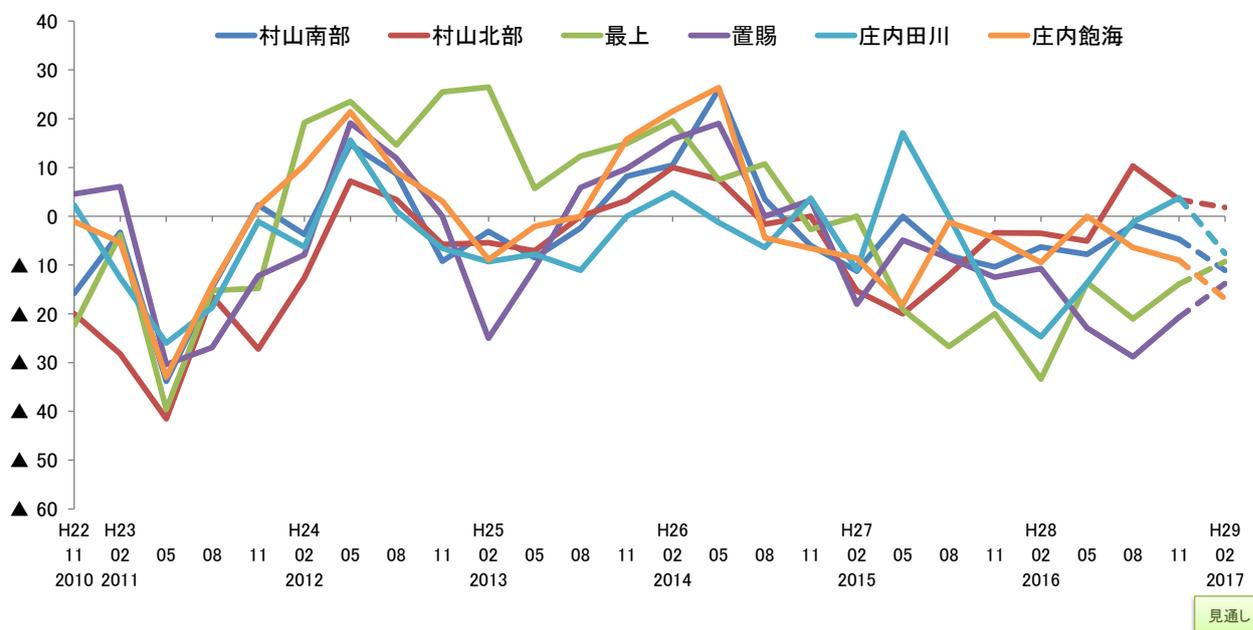
### 3. 地域別の動向

#### (1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲4.7（前回調査比2.9ポイント下落）、村山北部が3.4（前回調査比6.9ポイント下落）、最上が▲13.9（前回調査比7.1ポイント上昇）、置賜が▲20.7（前回調査比8.1ポイント上昇）、庄内田川が3.8（前回調査比5.0ポイント上昇）、庄内飽海が▲9.0（前回調査比2.6ポイント下落）となっている。村山南部、村山北部、庄内飽海で悪化した一方で、最上、置賜、庄内田川で改善となった。庄内田川ではDI値が6期ぶりにプラスに転じた。

業況の先行き見通しをみると、村山南部、村山北部、庄内田川、庄内飽海の4地域で悪化が見込まれている。

図表 11 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
H 27. 11 (n=440)	▲ 10. 6	▲ 10. 4	▲ 3. 4	▲ 20. 0	▲ 12. 5	▲ 17. 9	▲ 4. 4
H 28. 02 (n=428)	▲ 13. 1	▲ 6. 3	▲ 3. 5	▲ 33. 4	▲ 10. 7	▲ 24. 7	▲ 9. 5
H 28. 05 (n=451)	▲ 9. 6	▲ 7. 8	▲ 5. 1	▲ 13. 6	▲ 22. 9	▲ 13. 7	0. 0
H 28. 08 (n=457)	▲ 6. 3	▲ 1. 8	10. 3	▲ 21. 0	▲ 28. 8	▲ 1. 2	▲ 6. 4
<b>H 28. 11 (n=435)</b>	<b>▲ 6. 0</b>	<b>▲ 4. 7</b>	<b>3. 4</b>	<b>▲ 13. 9</b>	<b>▲ 20. 7</b>	<b>3. 8</b>	<b>▲ 9. 0</b>
前回調査比	(0. 3)	(▲ 2. 9)	(▲ 6. 9)	(7. 1)	(8. 1)	(5. 0)	(▲ 2. 6)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 10. 1</b>	<b>▲ 11. 1</b>	<b>1. 8</b>	<b>▲ 9. 3</b>	<b>▲ 13. 8</b>	<b>▲ 7. 6</b>	<b>▲ 16. 9</b>
今回調査比	(▲ 4. 1)	(▲ 6. 4)	(▲ 1. 6)	(4. 6)	(6. 9)	(▲ 11. 4)	(▲ 7. 9)

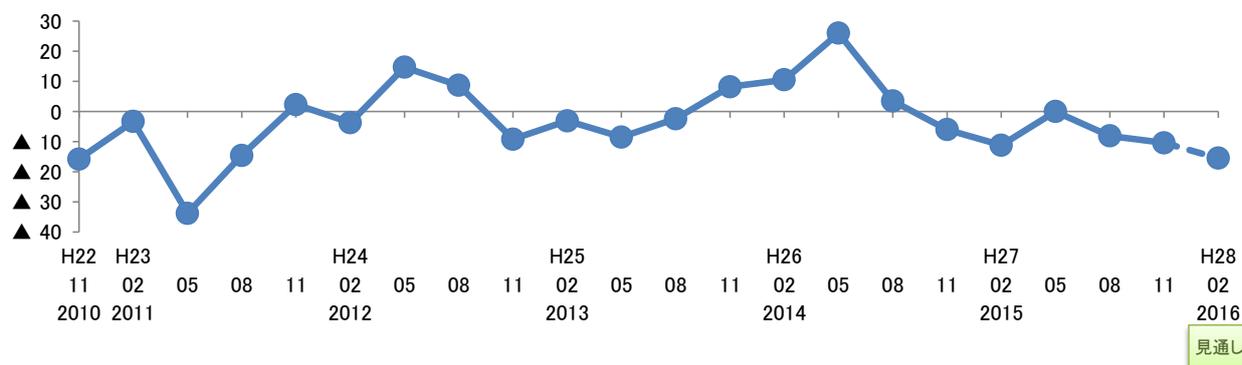
## (2) 地域別 D I 値の動向

### ① 村山南部

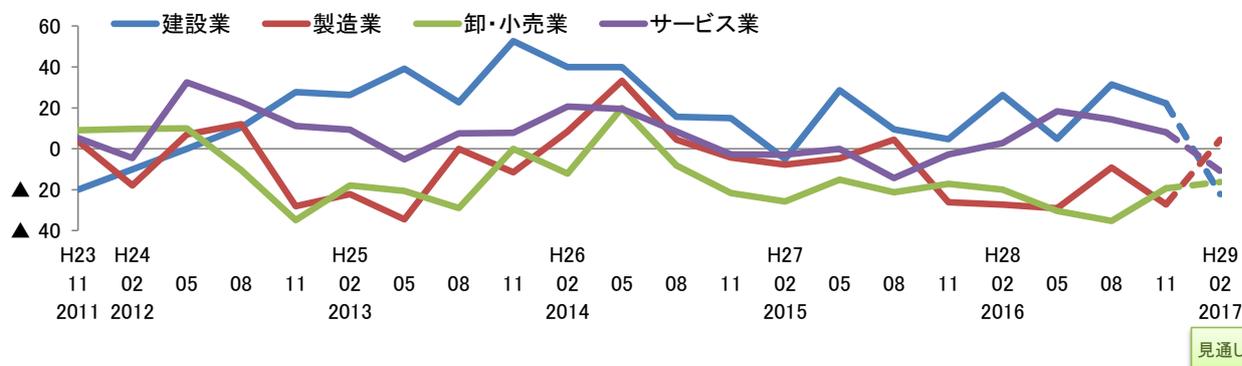
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲4.7（前回調査比 2.9 ポイント下落）と、一進一退の状況となっている。業種別にみると、卸・小売業で改善したものの、他の 3 業種で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲11.1（今回調査比 6.4 ポイント下落）とさらに悪化が見込まれている。

図表 12 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 13 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

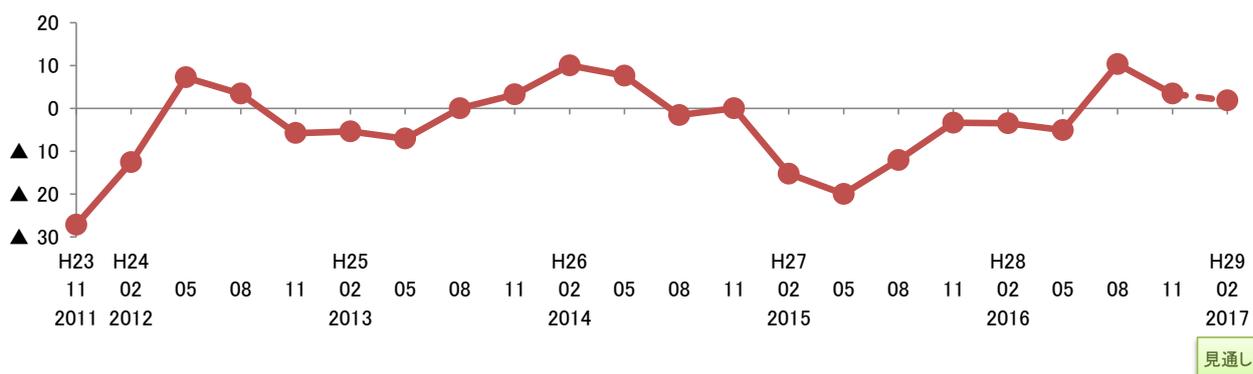
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 27. 11 (n=116)	▲ 10.4	(▲ 2.3)	▲ 1.8	4.7	▲ 26.1	▲ 17.1	▲ 2.7
H 28. 02 (n=112)	▲ 6.3	(4.1)	▲ 15.5	26.3	▲ 27.3	▲ 20.0	2.8
H 28. 05 (n=116)	▲ 7.8	(▲ 1.5)	▲ 11.6	4.8	▲ 29.1	▲ 30.3	18.4
H 28. 08 (n=117)	▲ 1.8	(6.0)	▲ 14.7	31.5	▲ 9.1	▲ 35.3	14.3
<b>H 28. 11 (n=108)</b>	<b>▲ 4.7</b>	<b>(▲ 2.9)</b>	<b>▲ 11.1</b>	<b>22.2</b>	<b>▲ 27.2</b>	<b>▲ 19.3</b>	<b>8.1</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 9.3)	(▲ 18.1)	(16.0)	(▲ 6.2)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 11.1</b>	-	-	<b>▲ 22.2</b>	<b>4.5</b>	<b>▲ 16.2</b>	<b>▲ 10.8</b>
今回調査比	(▲ 6.4)	-	-	(▲ 44.4)	(31.7)	(3.1)	(▲ 18.9)

## ② 村山北部

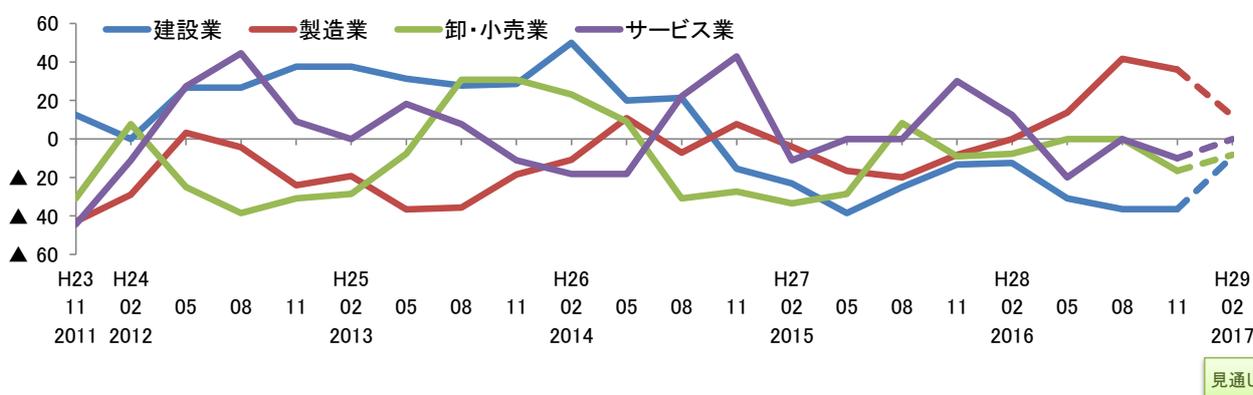
「自社の業況DI値（前年同期比）」は3.4（前回調査比6.9ポイント下落）と、DI値はプラスを維持したものの、悪化となった。業種別にみると、建設業で横ばいとなったものの、製造業、卸・小売業、サービス業で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が1.8（今回調査比1.6ポイント下落）とさらに悪化の見込みとなっている。

図表 14 村山北部「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 15 村山北部「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

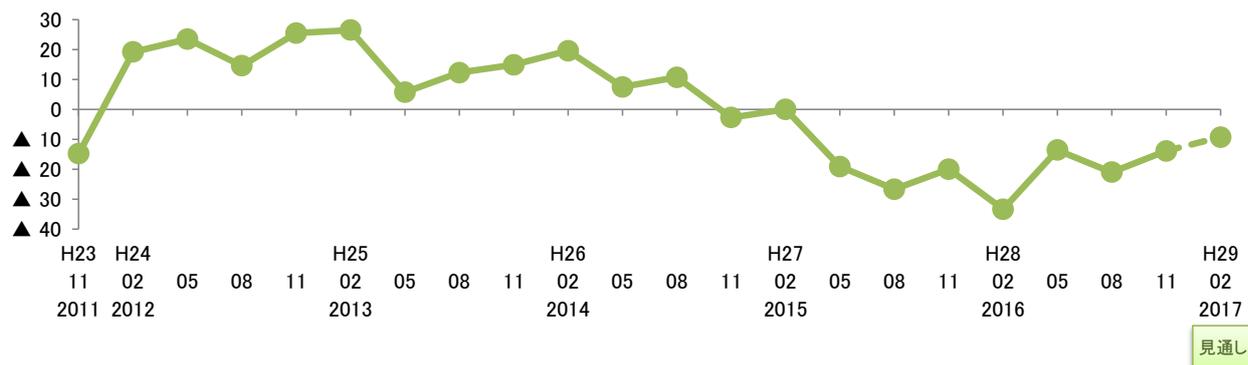
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 27. 11 (n=60)	▲ 3.4	(8.7)	▲ 3.4	▲ 13.3	▲ 8.3	▲ 9.1	30.0
H 28. 02 (n=57)	▲ 3.5	(▲ 0.1)	▲ 6.6	▲ 12.5	0.0	▲ 7.7	12.5
H 28. 05 (n=59)	▲ 5.1	(▲ 1.6)	▲ 15.8	▲ 30.8	13.7	0.0	▲ 20.0
H 28. 08 (n=58)	10.3	(15.4)	3.4	▲ 36.4	41.6	0.0	0.0
<b>H 28. 11 (n=58)</b>	<b>3.4</b>	<b>(▲ 6.9)</b>	<b>5.1</b>	<b>▲ 36.4</b>	<b>36.0</b>	<b>▲ 16.6</b>	<b>▲ 10.0</b>
前回調査比	-	-	-	(0.0)	(▲ 5.6)	(▲ 16.6)	(▲ 10.0)
<b>先行き見通し</b>	<b>1.8</b>	-	-	<b>▲ 9.1</b>	<b>12.0</b>	<b>▲ 8.3</b>	<b>0.0</b>
今回調査比	(▲ 1.6)	-	-	(27.3)	(▲ 24.0)	(8.3)	(10.0)

### ③ 最上

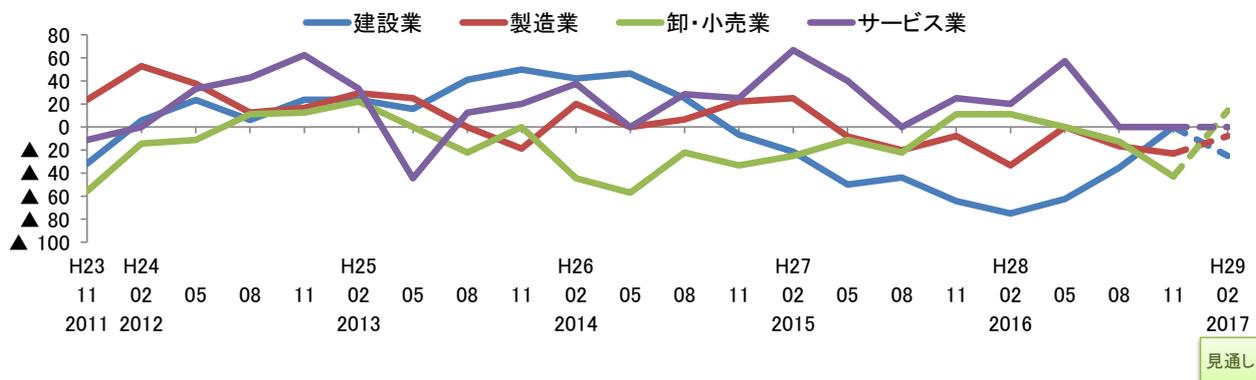
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲13.9（前回調査比 7.1 ポイント上昇）と改善となった。業種別にみると、製造業、卸小売業で悪化したものの、建設業で大幅に改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲9.3（今回調査比 4.6 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 16 最上「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 17 最上「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

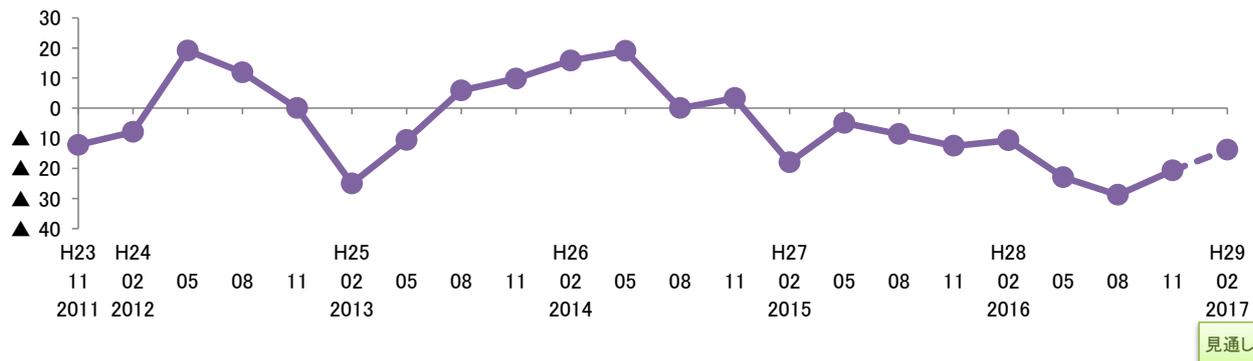
最上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 27. 11 (n=40)	▲ 20.0	(6.7)	0.0	▲ 64.3	▲ 7.7	11.1	25.0
H 28. 02 (n=42)	▲ 33.4	(▲ 13.4)	▲ 22.5	▲ 75.0	▲ 33.3	11.1	20.0
H 28. 05 (n=44)	▲ 13.6	(19.8)	▲ 40.5	▲ 62.5	0.0	0.0	57.1
H 28. 08 (n=43)	▲ 21.0	(▲ 7.4)	▲ 20.5	▲ 35.3	▲ 16.7	▲ 12.5	0.0
<b>H 28. 11 (n=43)</b>	<b>▲ 13.9</b>	<b>(7.1)</b>	<b>▲ 9.3</b>	<b>0.0</b>	<b>▲ 23.1</b>	<b>▲ 42.9</b>	<b>0.0</b>
前回調査比	-	-	-	(35.3)	(▲ 6.4)	(▲ 30.4)	(0.0)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 9.3</b>	-	-	<b>▲ 25.0</b>	<b>▲ 7.7</b>	<b>14.3</b>	<b>0.0</b>
今回調査比	(4.6)	-	-	(▲ 25.0)	(15.4)	(57.2)	(0.0)

### ④ 置 賜

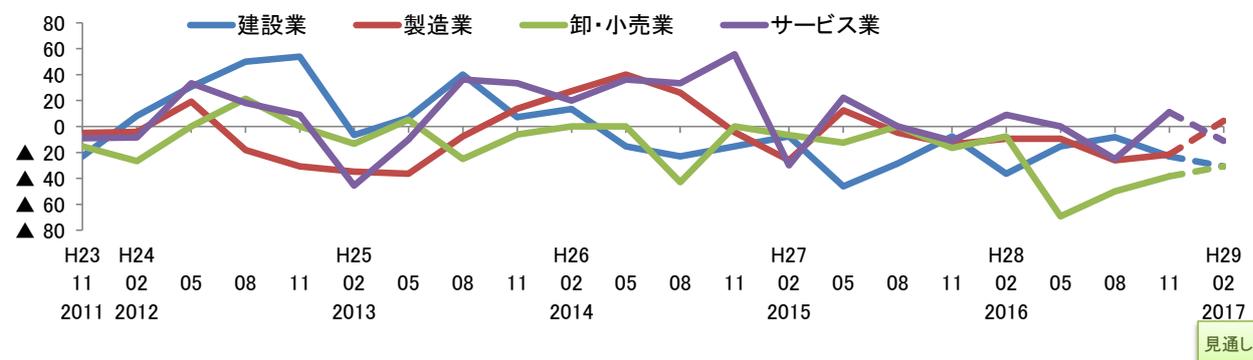
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲20.7（前回調査比 8.1 ポイント上昇）と 3 期ぶりに改善となった。業種別にみると、建設業を除く 3 業種で改善となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲13.8（今回調査比 6.9 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 18 置賜「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 19 置賜「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 27. 11 (n=56)	▲ 12.5	(▲ 3.9)	▲ 8.6	▲ 7.7	▲ 13.6	▲ 16.6	▲ 11.1
H 28. 02 (n=56)	▲ 10.7	(1.8)	▲ 16.0	▲ 36.4	▲ 9.5	▲ 7.7	9.1
H 28. 05 (n=57)	▲ 22.9	(▲ 12.2)	▲ 17.8	▲ 15.4	▲ 9.5	▲ 69.2	0.0
H 28. 08 (n=59)	▲ 28.8	(▲ 5.9)	▲ 24.5	▲ 8.3	▲ 26.1	▲ 50.0	▲ 25.0
<b>H 28. 11 (n=58)</b>	<b>▲ 20.7</b>	<b>(8.1)</b>	<b>▲ 20.3</b>	<b>▲ 23.1</b>	<b>▲ 21.7</b>	<b>▲ 38.5</b>	<b>11.1</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 14.8)	(4.4)	(11.5)	(36.1)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 13.8</b>	-	-	<b>▲ 30.8</b>	<b>4.3</b>	<b>▲ 30.8</b>	<b>▲ 11.1</b>
今回調査比	(6.9)	-	-	(▲ 7.7)	(26.0)	(7.7)	(▲ 22.2)

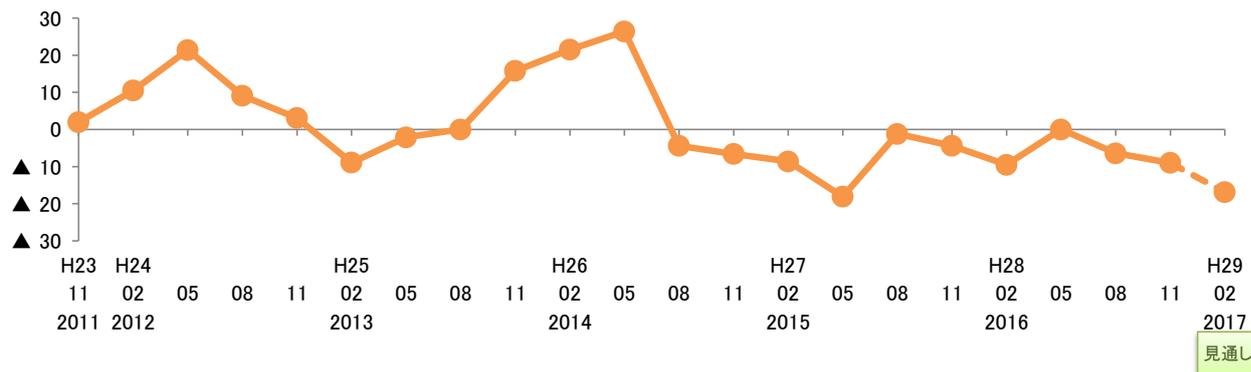


## ⑥ 庄内飽海

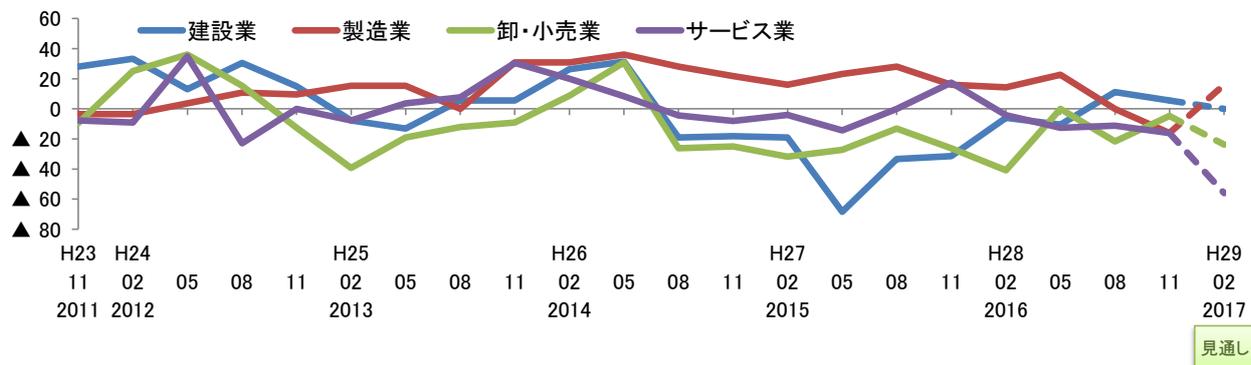
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲9.0（前回調査比 2.6 ポイント下落）と 2 期連続で悪化となった。業種別にみると、卸・小売業で改善したものの、建設業で、製造業、サービス業で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲16.9（今回調査比 7.9 ポイント下落）とさらに悪化の見込みとなっている。

図表 22 庄内飽海「自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 23 庄内飽海「業種別・自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 27. 11 (n=90)	▲ 4.4	(▲ 3.2)	▲ 9.3	▲ 31.5	16.0	▲ 26.1	17.4
H 28. 02 (n=84)	▲ 9.5	(▲ 5.1)	▲ 8.9	▲ 5.9	14.3	▲ 40.9	▲ 4.2
H 28. 05 (n=87)	0.0	(9.5)	▲ 19.1	▲ 10.5	22.7	0.0	▲ 12.5
H 28. 08 (n=93)	▲ 6.4	(▲ 6.4)	▲ 16.1	11.1	0.0	▲ 21.7	▲ 11.1
<b>H 28. 11 (n=89)</b>	<b>▲ 9.0</b>	<b>(▲ 2.6)</b>	<b>▲ 12.9</b>	<b>5.6</b>	<b>▲ 16.0</b>	<b>▲ 4.8</b>	<b>▲ 16.0</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 5.5)	(▲ 16.0)	(16.9)	(▲ 4.9)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 16.9</b>	-	-	<b>0.0</b>	<b>16.0</b>	<b>▲ 23.8</b>	<b>▲ 56.0</b>
今回調査比	(▲ 7.9)	-	-	(▲ 5.6)	(32.0)	(▲ 19.0)	(▲ 40.0)

II. 景気天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$

**山形県**

今期の業況 →

来期の見通し

**庄内飽海**

→

**最上**

→

**庄内田川**

→

**村山北部**

→

**置賜**

→

**村山南部**

→

今期の概況

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							



	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

### III. 特別調査

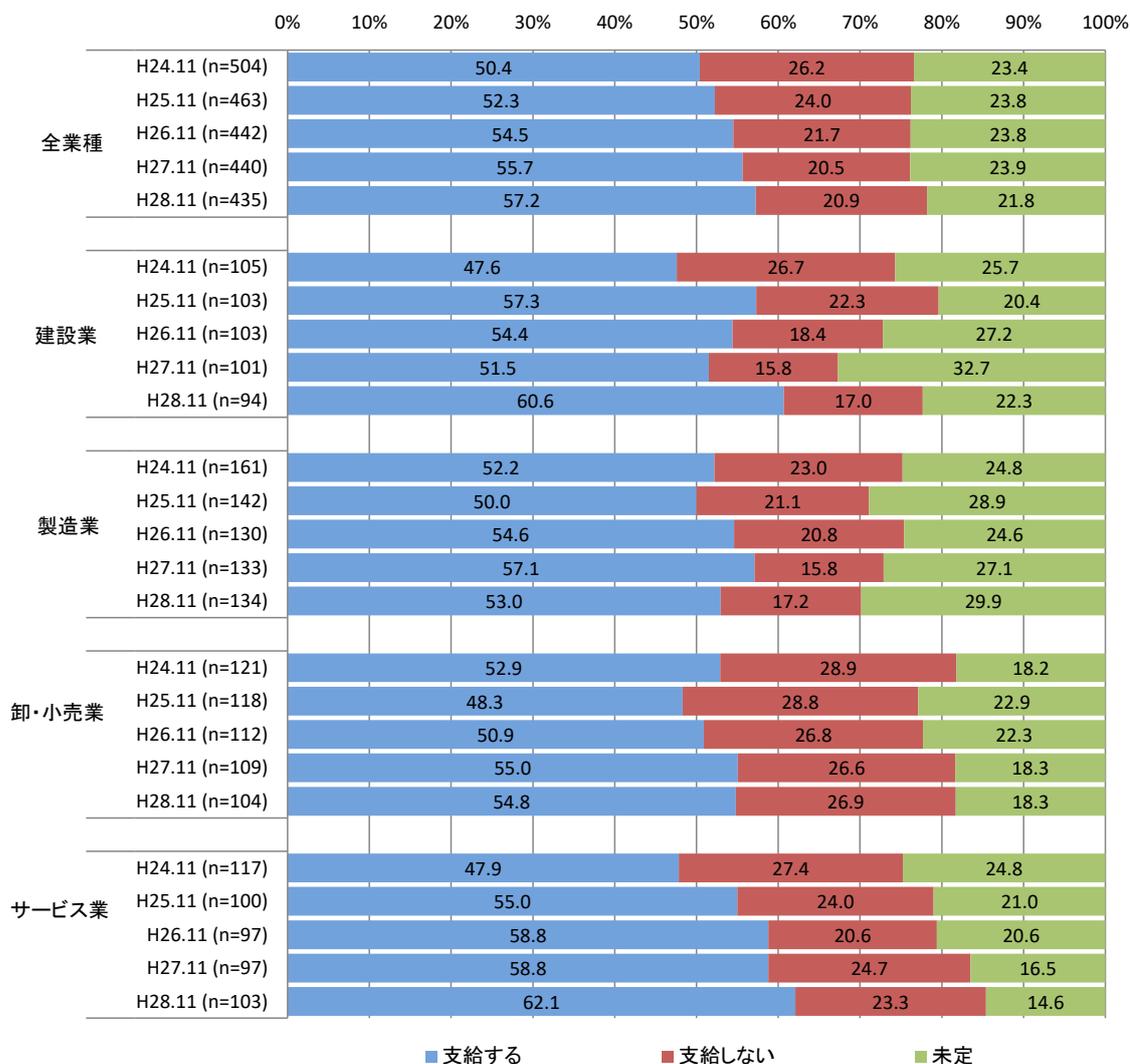
#### 1. 冬季ボーナスについて

##### (1) 支給予定動向

冬季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 57.2%（前年比 1.5 ポイント上昇）と、前年に比べて若干上昇し、平成 24 年 11 月調査以降 5 年連続の上昇となった。

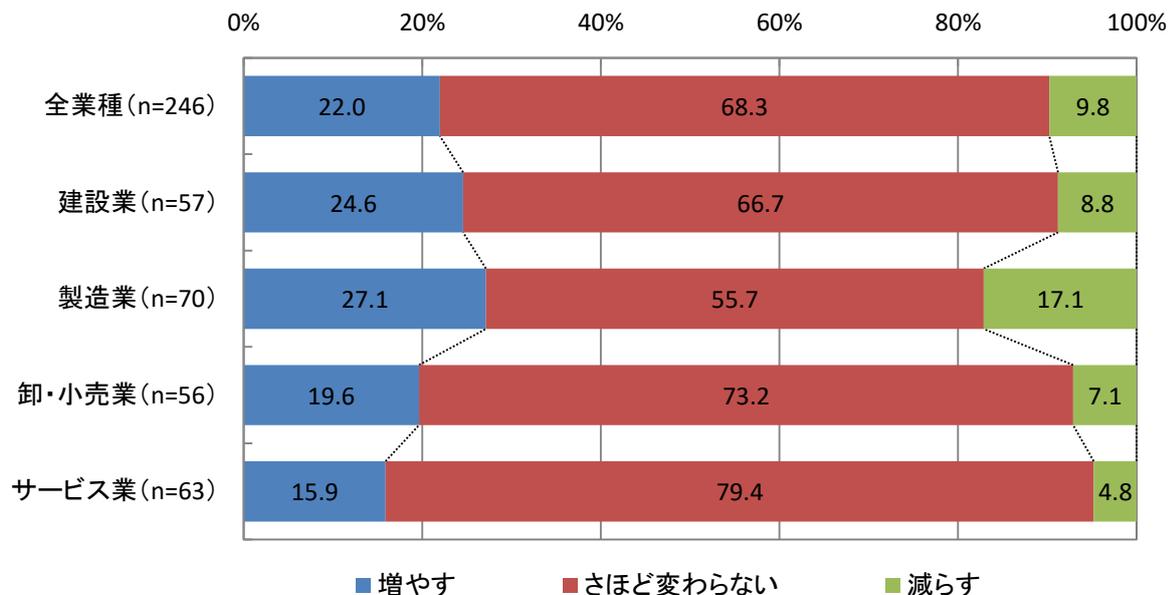
業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 60.6%（前年比 9.1 ポイント上昇）、製造業が 53.0%（前年比 4.1 ポイント低下）、卸・小売業が 54.8%（前年比 0.2 ポイント低下）、サービス業が 62.1%（前年比 3.3 ポイント上昇）と、建設業とサービス業で上昇している。

図表 24 業種別「冬季ボーナス支給動向」の推移



また、今季「支給する」と回答した企業に対し、昨年冬季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種で見ると「さほど変わらない」と回答した企業の割合が最も高く、68.3%であった。業種別にみると、製造業で、「増やす」および「減らす」と回答した企業の割合が他業種に比べていずれも高く、製造業において、特に、企業ごとに業況にばらつきのある状況がうかがえる。

図表 25 業種別「冬季ボーナスを“支給する”企業の方針」

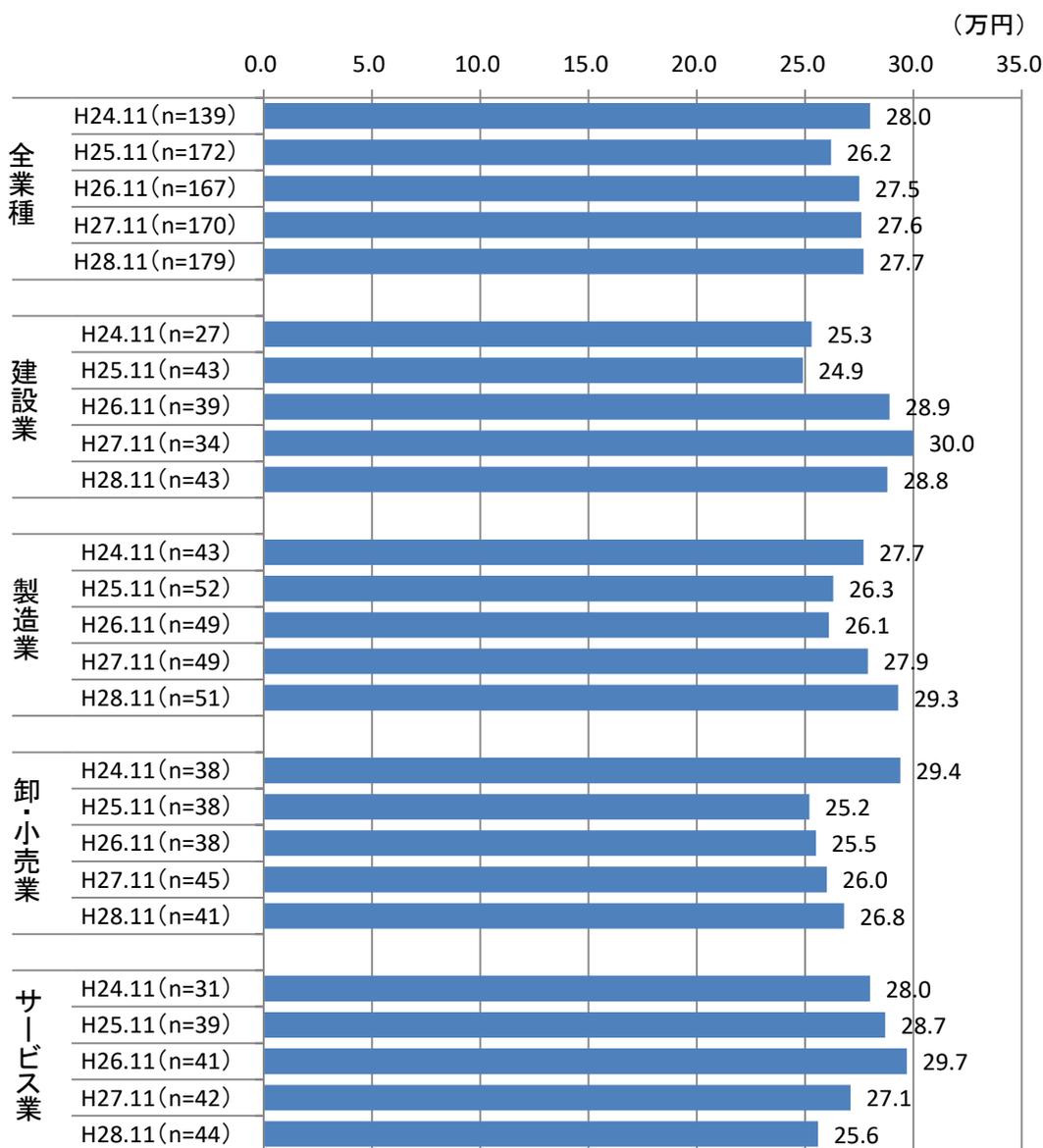


## (2) 支給予定額

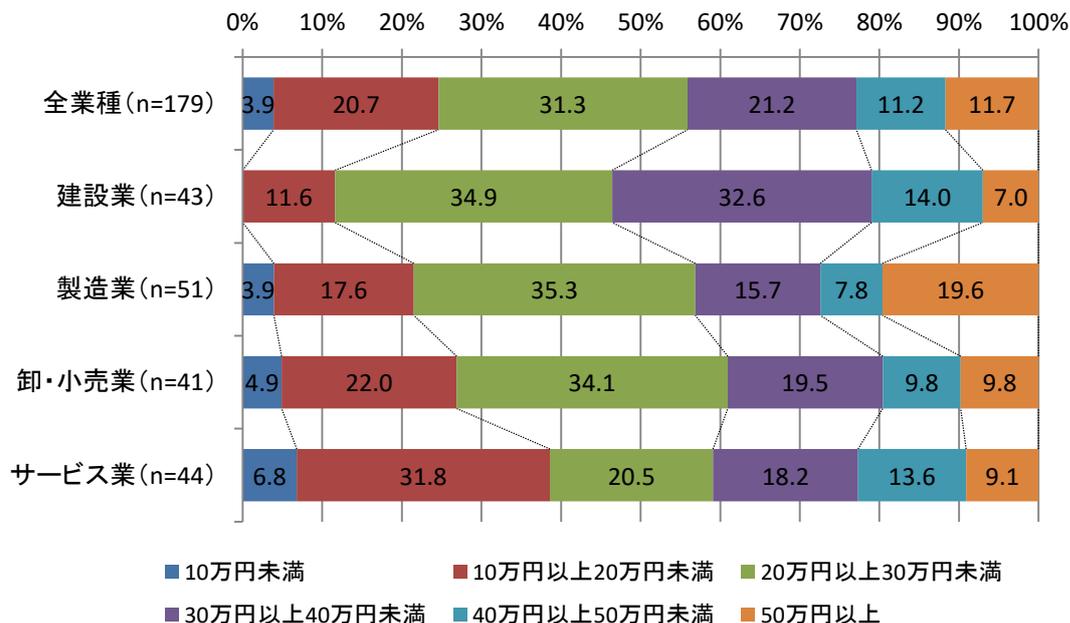
冬季ボーナスの支給予定額については、全業種平均で 27.7 万円となり、昨年に比べ 0.1 万円の増加となる見込みである。業種別にみると、製造業が 29.3 万円と最も高い一方、サービス業が 25.6 万円と最も低い。

平均支給予定額は、全業種で「20 万円以上 30 万円未満」が最も多く、31.3%となっている（図表 28）。  
平均支給予定月数は、全業種で「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」が最も多く、37.3%となっている（図表 29）。

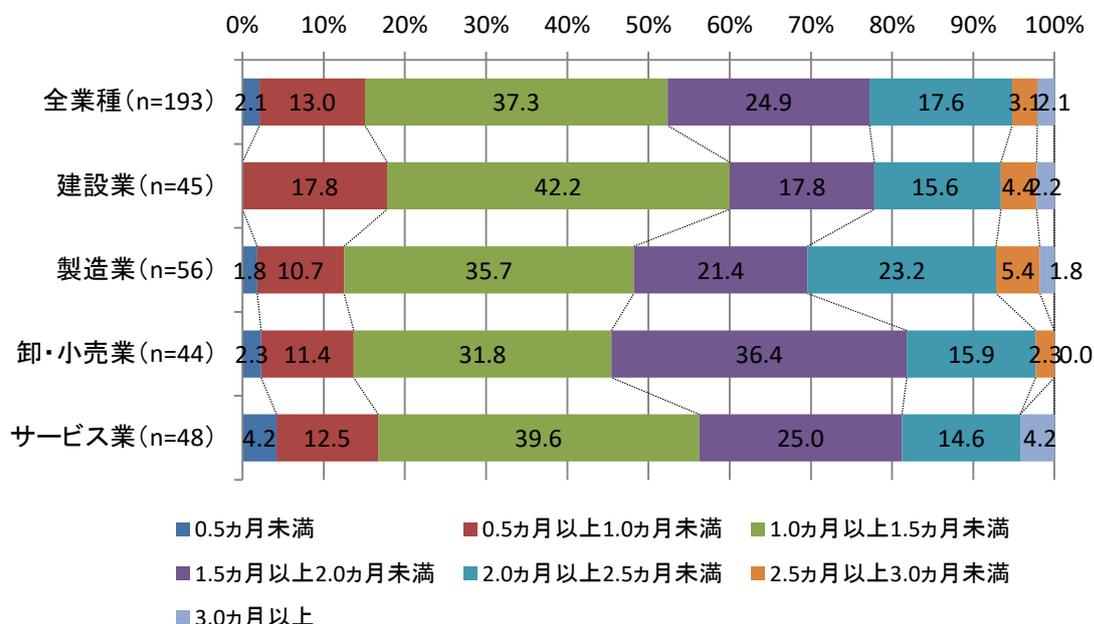
図表 26 業種別「冬季ボーナスの平均支給予定額」の推移



図表 27 業種別「冬季ボーナス平均支給予定額」



図表 28 業種別「冬季ボーナス平均支給予定月数」



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	23	35	51	56	165
村山北部	21	37	17	18	93
最上	21	18	11	18	68
置賜	23	32	25	15	95
庄内田川	30	38	29	31	128
庄内飽海	35	36	32	38	141
合計	153	196	165	176	690

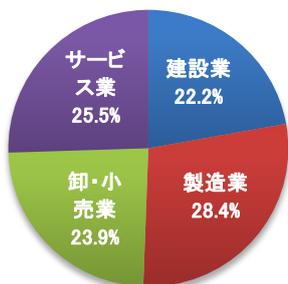
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	18	22	31	37	108
村山北部	11	25	12	10	58
最上	16	13	7	7	43
置賜	13	23	13	9	58
庄内田川	18	26	20	15	79
庄内飽海	18	25	21	25	89
合計	94	134	104	103	435

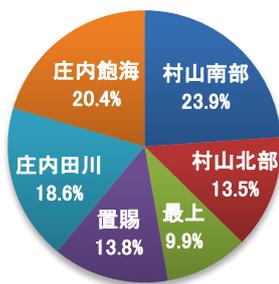
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	78.3	62.9	60.8	66.1	65.5
村山北部	52.4	67.6	70.6	55.6	62.4
最上	76.2	72.2	63.6	38.9	63.2
置賜	56.5	71.9	52.0	60.0	61.1
庄内田川	60.0	68.4	69.0	48.4	61.7
庄内飽海	51.4	69.4	65.6	65.8	63.1
合計	61.4	68.4	63.0	58.5	63.0

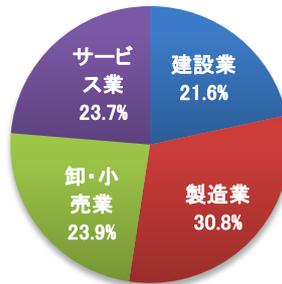
サンプル割合（業種別）



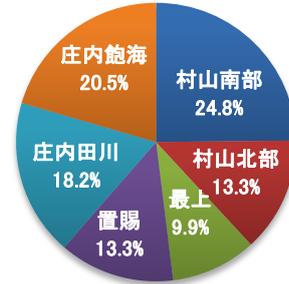
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部FAXを利用）

● 調査期間

平成 28 年 11 月 1 日（火）～14 日（月）

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況 D I 値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N 会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちら是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (<http://www.f-ric.co.jp/>) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア総合研究所

研究開発グループ 熊本 均 / 松田 美由紀

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@f-ric.co.jp URL : <http://www.f-ric.co.jp/>